

令和7年3月17日  
関東運輸局

## 関東運輸局地域交通優良団体等表彰について

～ 関東運輸局長より表彰状の贈呈を行います ～

地域公共交通に関する取組が他地域の模範となるような顕著な功績のあった3団体に対し、3月24日(月)に関東運輸局長が表彰致します。

### 記

#### 1. 表彰式

日時: 令和7年3月24日(月)14:00～

場所: 関東運輸局 局長室

(神奈川県横浜市中区北仲通5-57 横浜第2合同庁舎17階)

#### 2. 受賞団体

2事項3団体

・栃木県宇都宮市、栃木県芳賀町

・NPO法人 小さな村総合研究所

※公務等の都合により、開始時刻等が変更となる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

#### 3. 取材について

・報道関係者で表彰式の取材、カメラ撮影を希望される方は、以下の問い合わせ先のメールアドレスあてに必要事項(取材する方の氏名、所属、連絡先)を記載のうえ、3月21日(金)12:00までにお申し込みください。

・当日は、13:50までに17F交通政策部交通企画課にお越しください。

#### 【問い合わせ先】

関東運輸局交通政策部交通企画課 石山、坂本

TEL: 045-211-7209 Email: ktt-koutsuu1@mlit.go.jp

#### 【配布先】

関東運輸局記者会(ハイタク等専門紙)、物流専門紙、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、群馬県政記者クラブ、千葉県政記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、都庁記者クラブ、横浜海事記者クラブ

# 栃木県宇都宮市・芳賀町



・人口減少や少子・超高齢社会の中においても、子どもから高齢者まで誰もが移動しやすく暮らし続けられるまちの土台となる「ネットワーク型コンパクトシティ」を実現するため、地域拠点、産業、観光拠点などの拠点間を繋ぐ基幹公共交通としてライトラインを整備し、利便性の高い公共交通ネットワークを実現

## (取組の概要)

### 1. 多様な主体の実質的参画

- LRTの事業化に向け、「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」(有識者や行政<国・県>, オブザーバー<交通事業者や近隣市町>など30名で構成)を設置。更に下部組織として5つの部会において、車両やデザイン、交通結節点、まちづくり、整備効果などを検討。
- 沿線住民や企業などと膝を交えた意見交換会の実施や市内全39地区の連合自治会への説明会、更には、市民フォーラムやオープンハウスなどの説明機会を設けるなど、**約1,000回以上の丁寧な説明会を実施し住民理解を促進。**
- 車両のデザインや愛称を市民アンケートで選定するとともに、**全19停留場の地域性を創出するため、住民とともに壁面個性化のデザインワークショップを実施し、**ライトラインが将来にわたって地域に愛されるようマイルール意識を醸成。

### 2. 創意工夫

- **交通系ICカード活用による全扉からの乗降可能な信用乗車(セルフ乗車)方式を採用し、**定時制・速達性を確保。
- 「Suica」と一体化した**宇都宮市独自の交通系ICカード「totra」を発行し、**バスやライトラインなどの運賃において乗継割引サービスや上限運賃制度、高齢者(満70歳以上)に対し10,000ポイントを付与し外出促進を図るなど独自の公共交通の利用促進策を展開。
- ライトライン開業前に**宇都宮市内の中高生に対し「totra」を無料配布**するとともに、**市内の小中学生を対象に「小児用totra」を無料で取得できる引換券を配付**するなど、子どもたちに将来にわたって公共交通を利用してもらえる機運醸成。
- 「トータルデザイン」を採用し、車両や停留場、サイン、ユニフォームなどについて、「**雷都を未来へ**」をコンセプトとしてデザインを統一し住民の愛着を醸成
  - 家庭ごみや太陽光発電等により発電された**地域由来の再生可能エネルギー100%**で走行する「**ゼロカーボントランスポート**」を実現するとともに、民間による電気バスの導入促進を図り、公共交通ネットワークの脱炭素化を推進。

### 3. 自立性・継続性

- 利用者ニーズや利用動向を踏まえダイヤ改正を3回実施し、朝ピーク時の快速運行を開始し利便性を向上させ、利用者数は、**需要予測の約1.2倍(平日:約16,000人~18,000人, 休日:約10,000人)で推移し、**運行事業者である「**宇都宮ライトレール(株)**」においては、**開業初年度の決算は黒字化を達成。**
- ライトラインの発着となる宇都宮駅東口においては、交流と賑わいなどを創出する交流拠点施設や商業施設などを整備するとともに、**沿線においては新築マンションの建築による人口増加や外出率が増加するなど様々な効果が発現。**
- ライトラインやバス、タクシー、地域内交通、デマンド交通、自動車などが連携するトランジットセンターの整備し、**バスにおいては路線を再編し平日148本、休日18本の増便を図る**など利便性の高い公共交通ネットワークを構築。



デザインワークショップ



愛称アンケート



信用乗車(セルフ乗車)



乗継割引制度



ライトラインの利用者数



# 栃木県宇都宮市・芳賀町

## 利便性の高い公共交通ネットワークの実現

◎ライトラインを整備したことにより、一部の既存バス路線を再編し、郊外部などに振り分け、バスネットワークの充実

●再編後のバスの運行本数(JR宇都宮駅東側)

	再編前	再編後	再編後
平日	506本	654本	+148本
土曜日	399本	414本	+15本
日曜日・祝日	320本	323本	+3本

※2023年8月再編時の運行本数

◎バス再編前後比較(郊外部からJR宇都宮駅までの所要時間と運賃)  
 定時性・速達性の向上と運賃の負担軽減により利用者サービスが向上

停留場名	再編前 (バスのみ)	再編後 (バス+ライトライン)	
芳賀町役場 (紫ルート)	74分 (930円)	59分 (740円)	※15分短縮 ※190円減
清原台3丁目	53分 (630円)	43分 (420円)	※10分短縮 ※210円減



さきそう河内号  
導入エリア



ひらり号  
導入エリア



ぐるっと石井号  
導入エリア



スマイル石井号  
導入エリア



よこかわいきいき号  
導入エリア



清南スマイル号  
導入エリア

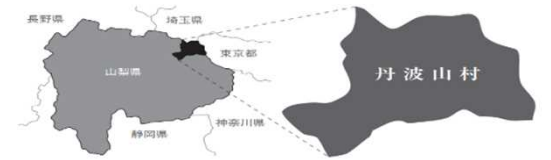


清原さきがけ号  
導入エリア



# NPO法人 小さな村総合研究所 (山梨県丹波山村)

関東で一番小さな村\*において、村民が積極的にボランティアドライバーとして参画することで、持続可能な村づくりと交通手段を確保し、交通空白地での課題を解消

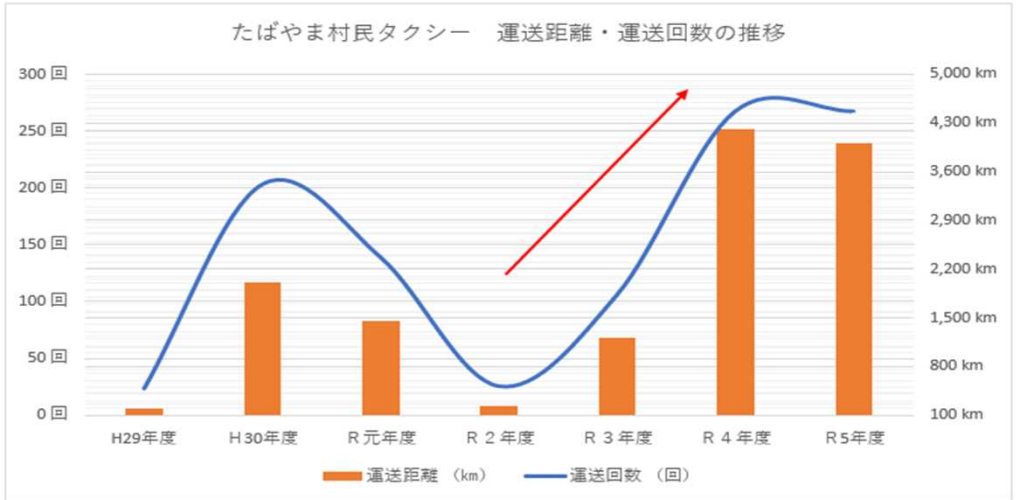


\*島しょを除く、関東運輸局管内で人口が最小

## (取組の概要)

### 1. 多様な主体の実質的参画

- (1) 55名の村民ボランティアドライバー
  - 60代のシニア世代を主としつつも、地域おこし協力隊や集落支援員など多様なドライバーによる地域課題を自分事としての活動。
- (2) 5つの地区からの受付スタッフ
  - 奥秋、丹波（中宿・下宿）、高尾、鴨沢と5つの異なる地区の事情に詳しいドライバーを受付スタッフに採用し情報交換。



### 2. 創意工夫

- (1) 即時対応柔軟な受付対応を柱に
  - 全国の事例では前日予約が一般的だが村民タクシーでは可能な限り即時対応を行っている。
- (2) 柔軟な受付対応を柱に
  - できるだけ決まり事を少なくし利用者の立場にたち時間外など可能な限り対応。

### 3. 自立性・継続性

- (1) 新規ドライバーの団体講習
  - 村外への転居など、ドライバーが減少することもあるため、主に新規移住者に向けた、村内での団体講習を1年に一度開催。
- (2) チラシなどの村内配布
  - 新規移住者への理解促進、高齢者への利用促進などのため、数年に一度、全戸へチラシ配布を実施。



電話受付を行う5人のシニアスタッフと自家用車

**丹波山村民が運転する たばやま村民タクシー**

3人乗車 1km 200円

2~3人で乗車するとおトク!

私たちがお出かけのお手伝いをします。

TAXI 鴨沢バス停 800円

新庁舎 丹波山村役場

奥多摩駅 2300円

4600円

0428-88-0611

受付時間 9:00-17:00 土日祝もOK!

村内で全戸配布されたチラシ